

気軽な調査「払い落とし法」～ダイズ害虫用～

害虫の発生時期を把握することは、防除の要否や防除適期の判断に必要であり、その調査法は正確で手軽なものが望まれる。そこでダイズ害虫の調査法で簡便なものとして払い落とし法を試した。一般的に用いられている見とり法に比べて、払い落とし法では所要時間は短く、虫数結果は多い傾向で、低密度時の害虫発見にも役立つ。

内容

ダイズ害虫の調査法で一般的な見とり法は、株全体を目視して害虫を確認する方法である。害虫は葉裏や株の茎、莢にもおり、株をかき分けて確認するため、株が繁茂すると時間がかかり、見落としも多くなる。

今回検討した払い落とし法（図1）は、株を揺らして落下させた害虫を捕虫網で受けるという簡単な作業で、所要時間は、見とり法と比較すると株あたり約20秒（10株調査なら約3分）短い（表）。さらに、虫数は、カメムシ類とフタスジヒメハムシで見とり法の約1.7倍となり（図2）株に生息する害虫の検出性が高く、発生が低密度の場合にも適している。また、払い落とし法の作業の簡単さから調査者によって結果がばらつきにくいことも確認した。



図1 「払い落とし法」と「見とり法」

※比較は、同一株について見とり法を実施後、払い落とし法を行い所要時間および虫数結果を両調査法で比較した。供試したダイズ品種はサチユタカ、播種 H22.5.27、畝幅120 cm、株間30 cm、1条植。

普及上の注意事項

払い落とし法は、カメムシ類、フタスジヒメハムシなど、揺らすことで落下しやすい種類の害虫に適している。茎葉をしっかり保持するハスモンヨトウの幼虫等も若～中齢は捕獲できるため発生の有無は確認可能である。

今回捕虫網は、水稻害虫調査で一般的な口径36㎝を用いた。さらに大きな捕虫網を利用すれば検出性は高まると考えられるため、今後の検討が必要である。

松原 由加里（環境・病害虫部）
（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）

2種調査法による所要時間の比較

払い落とし法	見とり法
52.5(±2.3)秒	71.3(±5.8)秒

9/9～10/8間の、のべ40株調査における平均所要時間。
()内は標準誤差。

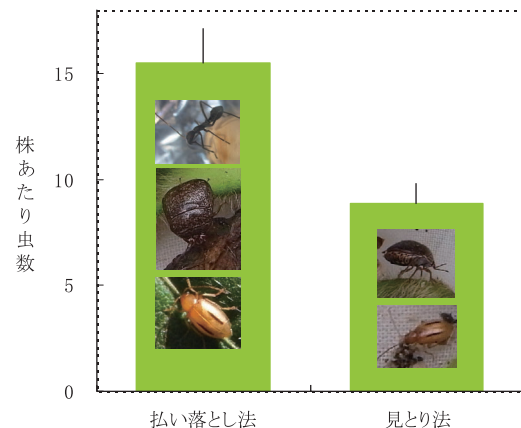


図2 2種調査法によるカメムシ類・フタスジヒメハムシ虫数比較

9/2～10/16の、のべ70株調査における株あたり平均虫数。